

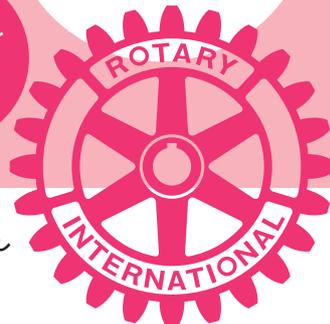


国際ロータリー第2530地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 佐久間 英一
会長 宮崎 登志行
幹事 采女 真弓



人類に
奉仕する
ロータリー



第28回例会 H.29.2.8 水 ☁

▶開会点鐘 ▶ロータリー歌斉唱「我らの生業」 ▶四つのテスト唱和 渡部宏夫さん

▶ゲスト紹介 采女真弓幹事

<ゲスト>本田哲夫 中央分区ガバナー補佐 (郡山南RC)
有賀善吉 IM副実行委員長 (郡山南RC)

会長挨拶

宮崎登志行 会長

本日午後4時からベトナム国立交響楽団への楽譜の贈呈式を東京で行います。今回で3回目となり、鈴木国際奉仕委員長と向山副委員長が先ほど向かわれ、私も例会終了後に駆け付けます。松川ロータリー情報委員長に地区補助金申請の手続きをしていただきました。ベトナム国立交響楽団はまだ財政的に厳しいということで、今後も支援を続けていければと思っています。

中央分区インターシティミーティング(IM)のご案内

本田哲夫 中央分区ガバナー補佐

IMを来週2月18日(土)午後2時からホテルハマツで行います。皆様のご出席をよろしくお願いいたします。

有賀善吉 IM実行副委員長

2月18日(土)午後2時より「ノーベル賞受賞者大村智先生と歩んだ半世紀」のテーマで岩井譲先生の基調講演、3時30分より開会式、3時50分より各クラブ代表者の発表、4時30分より各テーブルで話し合ってください交流会、5時30分より懇親会を行います。全員登録となっておりますので多くの参加をよろしくお願いいたします。



本田ガバナー補佐と有賀IM副実行委員長

蔭山寿一 広報委員長

ガバナー月信2月号の9ページに鈴木かおるさんからインターアクトクラブの国際理解研修会の報告が掲載されていますので皆様ご一読ください。

スマイルBOX報告

佐藤洋子委員長

- ☺ 本田哲夫様 ▶ 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ☺ 有賀善吉様 ▶ 貴クラブの益々のご発展をお祈り申し上げます。
- ☺ 小林 悦子 ▶ 素敵なバースデイカードありがとうございました。
- ☺ 宮崎登志行 ☺ 石堂 勝壽 ☺ 大山三起雄
- ☺ 武藤起代子 ☺ 宮澤キヨ子 ☺ 佐藤 功一
- ☺ 采女 真弓 ☺ 渡部 宏夫 ☺ 佐藤 洋子

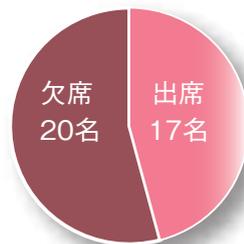
幹事報告

采女真弓 幹事

- (1) 2017-18年度の地区補助金申請締め切りのお知らせが来ております。社会奉仕・国際奉仕の事業に50万円まで申請できます。
- (2) ロータリー手帳をご希望の方は事務局にお申込みください。
- (3) 来週は2月18日(土)のIMに例会変更です。11時から新会員セミナーが開催されます。

出席報告

宮澤キヨ子 委員長



総員 37名
出席率 45.95%
前回修正率 64.86%



プログラム／ゲスト卓話



中央分区ガバナー補佐
本田 哲夫 様

郡山アーバンRCは平成9年に郡山南RCをスポンサークラブとして、初瀬行雄ガバナーから指名された土屋繁一先生が特別代表となられて発足し、采女幹事のお父様の本田英治さん、佐藤干城さん、今野正明さん、鈴木

木かおるさんの弟さんの土屋繁之さんの4人がキーマンとして郡山南RCから移籍されました。私は郡山南RCに昭和62年に入会しましたので、キーマンの方々とも10年近く一緒に、皆様に親しくしていただきました。藤田弘美さんのお父様の藤田朝雄さんは郡山南RCの20代会長をされました。私は2010-11年に郡山南RC会長を務めました。郡山アーバンRCは安中利夫会長でした。2011年は地震の年です。翌年の平成24年に私は弁護士会会長を務め、原発や地震での被害に対する弁護士会としての取り組みにも携わりました。

福島第一原発はタービン建屋が海側にあったために津波の被害を受けました。原発を川沿いにも建設するアメリカのGE社の設計をそのまま設置したもので、しかも30年までの稼働予定を40年も使っていました。東北電力が1984年に運転を開始した女川原発は、9世紀にあった貞観地震の伝承と地質調査の結果を考慮して地盤を下げないで建てたことから、津波の被害はありませんでした。2000年代から東京電力は津波被害の危険性を知っていましたが、担当者の誰も改修を提案しませんでした。東京電力は原発を福島と新潟に置いています。どちらも電力供給エリアではありません。都心からの距離も考慮してのことであろうと思います。ご存知のように地震はプレートテクトニクス(地質構造)によって起こります。日本の周囲は4つのプレートがせめぎ合っています。このような所で原発による発電を行っている国はなく、フランスやアメリカの原発はプレートの真ん中にあります。

私は世界で一番高いエベレスト(8848m)、北アメリカ大陸の一番高いデナリ(6194m)にも登りました。デナリは去年までの名称はマッキンリーで、南極に行くためのトレーニングとして一人で冬に登った植村直己が亡くなった山として有名です。私が行ったのは夏の6月です。南アメリカ大陸のアコンカグア(6959m)、狭い意味でのヨーロッパ大陸最高峰であるモンブラン(4810m)、カスピ海と黒海の間にあるロシアコーカサス地方のエルブルス(5642m)に登りました。七大陸最高峰とされる4つに登り、あと3つは南極のヴィンソン・マシフ(4892m)、アフリカのキリマンジャロ(5,895m)、オセアニアのニューギニアにあるカルステンツ・ピラミッド(4884m)で、それほど日数もかからずに登れる山です。

天気予報が発達していることから、エベレストは最初のチャレンジで登頂できました。カトマンズから約5300mのベースキャンプまでは5~6日かかりますが、シェルパと牛に似た動物のヤクやゾッキョが荷物を運んでくれますので、大量に持って行けます。ガスボンベも持って行けますので、雪を溶かせば水にも不自由しません。詳細な天気図を見ることができ、天気が悪くても3~4日待てば回復することが分かります。一番苦労したのはデナリでした。4回目で登れましたが、3回目までは風が強くて8~9合目から下山せざるを得ませんでした。天気が読めないことと、全ての荷物を自分たちで持たなければならない

ためでした。ポーターも動物もいないので、荷物は自分で背負う分とソリに乗せて自分で引くしかありません。物理的に3週間分ほどしか持つことができず、天気が悪ければ下山せざるを得ないことになります。

山登りを始めたのは40代半ばくらいからです。足首を痛み、リハビリのために山登りを始めたら、ゴルフよりも面白いと感じたことがきっかけでした。国内の山はほとんど一人で行き、海外の山は山専門のガイド会社に申し込みます。エベレストも日本のガイド会社に申し込みました。社長兼ガイドと客5人、現地のシェルパや料理人など13人ほどのスタッフが一緒に登りました。日本人初の登頂は1970年の植村直己と松浦輝夫で、その5年後には先日亡くなった田部井淳子さんが登ったわけですから、改めてすごいと思います。当時は隊員自らが固定ロープをつなぐルート工作の作業をしなければなりませんでした。女子登山隊を組織して20人ほどが行き、最終的に登頂したのは田部井さんだけでした。最近では登山ガイド会社が公募しており、私もエベレスト登山隊に応募して行きました。第五キャンプから頂上にアタックする時には山登り専門のクライミングシェルパが付き、7000mほどから使う酸素ボンベの予備はシェルパが持ってくれました。登山シーズンの5月には各国からの登山隊がベースキャンプに500人ほど集まります。各隊がお金を出し合ってルート工作のために現地のシェルパを雇い、頂上までシェルパが張ってくれたロープにハーネスをつないで登りますので、まず落ちることはありません。歩ける限りは頂上に着くことができます。長時間動ける基礎的な体力は必要かもしれませんが、筋肉は酸素を消費してボンベを多く使いますから筋力は必要ないと思います。ベースキャンプから山頂までの標高差は3000mですから、1日に1000m登る体力があれば良いことになります。磐梯山は約1800mですが登山口のほとんどは800mにありますから、磐梯山に登ることができればエベレストにも登ることができることになります。私はトレーニングのために磐梯山に登っています。いきなり8000mまで行くことは非常に危険ですので、高所順応のために6000mまで3回ほど行き来します。高所では赤血球や毛細血管が増えることから、水を4リットル飲むことが鉄則です。山から下りてくると、空気の濃さを感じます。

ロータリー財団寄付者

■宮澤キヨ子 ■宮崎登志行 ■大山三起雄

米山記念奨学会寄付者

■津野 順子 ■采女 真弓 ■宮崎登志行
■鈴木 尚子 ■白岩 邦俊

ポリオ寄付者

■宮崎登志行